

生物多様性の取り組みに向けて

代表 吉田洋子

私たちのフォーラムは企業、市民、専門家、行政が柔軟にネットワークを組んでいるところに特徴があります。企業にとっては市民向けに解放している企業緑地以外のところでは始終市民が出入りするということではなく、夏のトンボ調査を中心に進めているので、継続していくことが可能というところもあると思います。また日常的な緑地管理についても、市民や専門家、行政のフォローも期待できるメリットも企業にとってはあるのではないのでしょうか。

今年度は、ISO14001環境マネジメントシステム規格の改正があり、生物多様性への取り組みが各企業に求められるようになり経営者、総務、環境担当者などの多様な立場の方にとって大きな課題となりました。そのような現在、「トンボはドコまで飛ぶかフォーラム」のようなネットワークは企業にとっては意味のあるものになってきているのではないのでしょうか。今年度はISO14001の改正に視点をあててオープンセミナー（企業緑地における生物多様性の講習会）を開催しました。このねらいは多くの企業に生物多様性の取り組みを是非始めて欲しいという考えのことからでした。したがって内容も実務的にも役立つ講座としました。事例の紹介を多くしたのも各企業が自分たちでできることから取り組んで欲しいという願いからです。

入船公園とJFEトンボみちでは6月から10月まで毎月子どもたちとトンボとり大作戦を実施しました。参加者の子どもの中で将来のトンボ調査の担い手が生まれるとうれしいです。

また今年も大学との連携で学生による調査などが実施されました。今後はフォーラムがプラットフォームとなり大学連携などにも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

フォーラムの活動も13年目となり研究成果もすっかりまとまっていますので私たちはもつとこのフォーラム活動の理解を深めていく広報活動も進めて行く必要があると考えています。

2015年度	2015 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2016 1月	2月	3月	
2015年度 トンボはドコまで飛ぶかフォーラム 活動内容	15日 第1回拡大運営委員会 前年度会計報告・当年度活動計画・事務局体制		2日 事務局会議 17日 第2回拡大運営委員会 本調査・トンボとり大作戦の実施検討	1日 事務局会議 16日 第3回拡大運営委員会 本調査調査実施要領、人員配置等の決定、秋のトンボとり大作戦、企業講習会検討	2日～8日 ○本調査（臨海部） ○本調査（内陸部） 18日～24日	1日 事務局会議 ○秋のトンボとり大作戦 12日 入船公園・JFEトンボみち	2日 事務局会議 19日 第4回拡大運営委員会 本調査・トンボとり大作戦の報告・オープンセミナー開催検討		○オープンセミナー（報告会） 14日 横浜市環境科学研究所	25日 事務局会議	8日 事務局会議	○神奈川県民活動支援センター活動PRパネル展 2月29日～3月11日 11日 事務局会議	
	← トンボとり大作戦（JFE トンボみち、入船公園）毎月 →												
	○JFE21世紀財団報告 ・2014年度活動報告書 配布	トンボとり大作戦 チラシ配布		○JVCケンウッド 池草刈り 3日	トンボとり大作戦秋 チラシ配布			○マツダ池草刈り 29日					・2015年度活動報告書 発行



2015年調査結果 ダイジェスト

前

年の臨海部調査では、いままで最低でも8種であった捕獲種が初めてそれを下回り7種となりました。内容も夏なら必ず捕れた6種（基本6種）とクロスジギンヤンマ1頭のみで、毎年1種は捕れていたアカネ属の姿もなく、最優占種のシオカラトンボだけが急増して過去最多数を記録したのでした。

さ

て、それを受けての2015年の本調査ですが、以前からの臨海部10地点、内陸部2地点の他に、新たに都市内の3地点（高田池、SMS、東横）を加え15地点、のべ209名の参加者で実施しました。捕獲は臨海部7種386頭、内陸部9種219頭で、臨海部は種数、種類とも前年とまったく同じでした。2014年臨海部に見られた傾向は、どうも一時的な現象ではなかったようです。

と

はいえ、臨海部をめぐる新たな動向もいくつかあげられます。東芝、入船公園でのチョウトンボの出現、貨物線の森での定着的な種オオシオカラトンボの捕獲、そして入船公園9月トンボとり大作戦でのナツアカネ（臨海部4年前の記録が最後）11頭の捕獲などです。また、内陸部でも、アカネ属の少ない三ツ池で、初めてコノシメトンボが捕獲されました。種構成が臨海部的で、しかも臨海部の最近のできごとがいくつも先駆的におきてきた池のことだけに、今後の臨海部を占ううえで興味が持たれます。

加

えて、臨海部全体の過去13年間を見ると、その種構成が2004年から5年間大きく変わることはなく、その後5年間は隔たりを生じ、さらには2014年に再び初期の姿に近づいて現在に至っているらしいことがわかってきました。とするなら、臨海部の種構成はこの先、こうした揺らぎや変動の繰り返しをしながら豊かになっていくのでしょうか。期待したいところです。

（農学博士：田口正男）



2015年度トンボはドコまで飛ぶか調査日程一覧表

調査地点(京浜臨海部)		2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日
鶴見区	キリン横浜ビアビレッジ		○	○	○			
	JFEトンボみち		○	○		○		
	東芝 京浜事業所				○	○	○	
	北部第二水再生センター				○	○	○	
	横浜サイエンスフロンティア高校	○	○	○				
	貨物線の森緑道					○	○	○
入船公園	○					○	○	
神奈川区	JVCケンウッド		○	○	○			
	マツダR&Dセンター横浜		○	○	○			
	国土交通省 横浜技調				○	○	○	
調査地点(内陸部)		17日	18日	19日	20日	21日	22日	24日
鶴見区	三ツ池公園	雨天中止	○	○				○
	二ツ池				○	○	○	
	高田池	雨天中止	○	○				
	SMSバイクショップ				○	○	○	
神奈川区	東横フラワー緑道		○	○	○			



東横フラワー緑道で初調査

トンボはドコまで飛ぶか調査2015(本調査)

- ◆調査日程・調査場所
京浜臨海部：8月2日(日)～8月8日(土)
内陸部：8月18日(火)～8月24日(月)
調査場所別調査日程：左表による。
- ◆調査時間：各地点午前中の2時間
- ◆調査参加者数 調査期間合計 延べ209名